

『西アジア考古学』投稿規定

『西アジア考古学』は、日本西アジア考古学会が発行する会誌であり、日本における西アジア考古学の裾野を広げ、その発展に寄与することを目的とします。編集は本会役員会の選出する編集委員会が行い、原則として年1回、毎年度末に刊行します。

1. 投稿資格および条件

- 1.1. 投稿は本会の会員に限ります。連名で執筆する場合は、責任著者が本会の会員であることを条件とします。ただし、編集委員会が投稿を依頼した場合はこの限りではありません。
- 1.2. 原稿は未発表のものに限り、原則として西アジア考古学に関連する内容とします。他の雑誌、単行本その他に掲載済み、または投稿中の原稿は受け付けません。

2. 原稿の種別および分量制限

投稿原稿の種別と分量制限は次の通りとします。分量制限として以下にあげる枚数は400字詰め原稿用紙換算で、本文、註、参考文献、図表を含みます（本規定4.1、4.11参照）。

- ① **論文**：新しい資料や視座に立脚し、十分な論証を伴う解釈が提示されており、独自の学術的貢献が強く認められる論考。100枚以内。
- ② **研究ノート**：試論、予察、実験的な論考。独自の学術的貢献が認められる、もしくは期待されるが、論文としては十分な論証を伴わないもの。100枚以内。
- ③ **調査報告**：遺跡や遺物等、考古学的な一次資料の学術的な調査成果の報告。100枚以内。
- ④ **資料紹介**：様々な種類の考古資料について紹介し、学術的な意義について注意を喚起するもの。50枚以内。
- ⑤ **動向**：昨今における学界や研究の動向の紹介、回顧、展望等。50枚以内。
- ⑥ **書評**：近年発表された論文、単行本、報告書等についての論評。20枚以内。

その他の種別を希望される場合は、編集委員会にご相談ください。

3. 投稿方法

- 3.1. **投稿の申込**：原則として採録を希望する会誌が刊

行される年度の6月末日までに、E-mailにて投稿をお申し込みください。期日までに申込のあった投稿原稿を優先して採否を審査します。申込の際には、件名を「西アジア考古学投稿申込」とし、以下の事項を明記してください。

- ① 原稿の種別
- ② 執筆予定者氏名
(連名の場合は責任著者を明記)
- ③ 原稿の表題（仮題でも可）
- ④ 原稿の概要（200字程度）
- ⑤ 連絡先（責任著者の郵便番号、住所、電話番号、E-mailアドレス）

また、複数の論文ないし研究ノートからなる「特集」の投稿申込も受け付けます。特集の責任编者、テーマ、原稿構成（予定でも可）を明記のうえ、6月末日までにE-mailにてお申し込みください。

申し込んだにもかかわらず7月5日までに受付確認の連絡がない場合は、編集委員会にお問い合わせください。

- 3.2. **原稿等の送付**：論文、研究ノート、調査報告、資料紹介の投稿を申し込んだ会員は、当該年度の10月末日までに、動向、書評の投稿を申し込んだ会員は当該年度の11月末日までに、以下の電子ファイルをE-mailに添付して送付してください。その際、件名は「西アジア考古学原稿」としてください。ファイルサイズがE-mail送信の上限（25MB）を超える場合は、CD-R等の電子媒体に収録して郵送するか、あるいはウェブ上のファイル送信サービス等をご利用ください。

- ① **添書**：原稿の種別、表題、執筆者氏名、400字詰め原稿用紙換算での枚数、図および表の点数、責任著者の連絡先を明記したMicrosoft Word文書ないしPDF形式のファイル（A4判1枚）。責任著者が年度内に海外出張等による長期不在、あるいは留学・異動・転居等を予定している場合は、予定時期とその間（後）の連絡手段について付記してください。
- ② **原稿**：本規定4.1～4.10に従って作成した、原稿のMicrosoft Word文書のファイル。手書き原稿はご遠慮ください。
- ③ **図表**：本規定4.11に従って作成した図表の電子ファイル。
- ④ **図表キャプション**：本規定4.11に従って作成

した、図表キャプションの Microsoft Word 文書ないし PDF 形式のファイル (A4 判)。

- ⑤ **PDF ファイル (もしくは打ち出し原稿 3 部)**：図表とキャプションを含めた原稿全体を PDF 形式で出力した単一のファイル。図表は希望する挿入位置に、キャプションは対応する図の後あるいは表の前に、それぞれ配置してください。PDF ファイルの作成が困難な場合は、図表の挿入位置を明記した原稿とキャプションを付した図表を 3 部ずつ印刷し、郵送してください。

送付したにもかかわらず、11 月 10 日 (論文、研究ノート、調査報告、資料紹介の場合) あるいは 12 月 10 日 (動向、書評の場合) までに受領確認の連絡がない場合は、編集委員会にお問い合わせください。また、投稿原稿が本規定を著しく逸脱している場合は、受理しかねますのでご了承ください。

3.3. 投稿の申込・原稿等の送付先：

E-mail の場合 journal@jswaa.org

(『西アジア考古学』編集委員会)

郵送の場合 〒305-8571

茨城県つくば市天王台 1-1-1

筑波大学人文社会系歴史・人類学専攻

三宅裕研究室気付

『西アジア考古学』編集委員会 宛

(封筒の表に「西アジア考古学原稿」と朱書きしてください)

4. 原稿の体裁

- 4.1. 使用言語は、日本語あるいは英語を原則とします。A4 判の横書きとし、1 頁あたり全角 40 字×30 行で作成してください。本規定 2 の分量制限に係る原稿用紙換算に際しては、10 行を 1 枚分としてください。
- 4.2. 日本語の表記は常用漢字・現代仮名使いを用いてください。なお、特殊文字については、編集の都合上表現できない場合もあります。機種依存文字は使用しないでください。また、編集委員会で表記を統一することもあります。ご了承ください。
- 4.3. アルファベット表記はすべて半角文字を用い、「.」「,」「:」「;」等の後は、原則として半角で 1 字分、空けてください。ただし、「.,」と続く場合や「e.g.」等の記号は、間を空けずに表記します。
- 4.4. 算用数字の表記は、桁数に関わらず半角にしてください。
- 4.5. 単位の表記は、カタカナや漢字 (「ヘクタール」

「平米」等)ではなく、アルファベット記号 (「ha」「m²」等)を原則とします。数値と単位記号の間は、半角で 1 字分、空けてください。

- 4.6. 原稿の冒頭 (本文の前) には以下の事項を順に明記してください。

- ① **原稿の種別**：本規定 2 を参照のうえ、希望する種別を選択してください。
- ② **表題**：日本語および英語の両方で表記してください。副題を付す場合、日本語では「一」(ダッシュ)で前後を括り、英語では「:」(コロン)の後、半角 1 字分を空けて主題と繋げてください。
- ③ **執筆者の氏名と所属先**：日本語およびラテン文字表記の両方で表記してください。執筆者氏名の表記は以下の例に従ってください。

(例) 江上 波夫 Namio EGAMI

ロバート J. ブレイドウッド

Robert J. BRAIDWOOD

オファー バール＝ヨセフ

Ofer BAR-YOSEF

所属先は、所属機関 (大学・大学院等)・部局 (学部・研究科等) までの正式名称で表記し、学部学生・研究生等の方はその身分名を、大学院生の方は課程名 (修士課程・博士課程・博士前期課程・博士後期課程等) を日本語の所属先に追記してください。所属機関のない方は、「日本西アジア考古学会 (Japanese Society for West Asian Archaeology)」とお書きください。

- ④ **要旨**：論文・研究ノート・調査報告に限り、その要旨を和文 (300 字程度) および英文 (150 語程度) で付してください。
- ⑤ **キーワード**：書評以外は、内容に即したキーワード 3~5 語を日本語および英語であげてください。
- 4.7. 章・節・項の見出しには 1 行をとり、前行を空けてください。章の見出しの前には 1.、節の見出しの前には (1) のように番号をつけてください。項には番号をつけず、見出しを太字にしてください。
- 4.8. 和文の場合、外国語の固有名詞は原則としてカタカナで表記し、初出の箇所にラテン文字表記を括弧内に付記してください。
- (例) カリム・シャヒル (Karim Shahir)
- K. ビッテル (Bittel)
- 4.9. 註は本文右肩に通し番号を半角の片括弧付きの算用数字で付し、本文末に一括して掲載してください。
- (例) …していたことが窺える¹⁾。

4.10. 文献の参照法は、原則としていわゆるハーヴァード方式に従ってください。

- ① 原則として出典だけを示す註は付けず、本文または註の文中に全角の括弧（ ）に入れ、以下の例のように文献を参照してください。

(例) (Childe 1956: 52)

(Belenizky 1980: 115-118; Harper 1981: Fig. 5. 1)

(Tsuneki et al. 1999, 2000, 2001)

(Contenson ed. 1970: 18, Table 2. 3)

(Braidwood and Braidwood eds. 1960: Figs. 3-5)

(Buccellati 1988: Figs. 2, 4)

(Бадер и Церетели 1989: 94)

(Лионне и др. 2011)

(Shimelmitz, Barkai et al. 2011, 2016a)

(e.g. Akazawa et al. eds. 2014)

(江上 1975a: 136-138, 1980: 33)

(cf. 松本ほか編 1995; 西秋・木内編 2005: 註 2)

(西藤 2015: 44, 図 3-5)

著者等が2名の場合、日本語・中国語等の文献は「・」、欧語文献は「and」(ラテン文字表記)や「и」(キリル文字表記)等で繋いでください。著者等が3名以上の場合、筆頭著者の姓に続けて「ほか」ないし「et al.」「и др.」等と表記します。ただし、筆頭筆者と出版年が同一の文献が複数あるときは、筆頭著者と二番目の筆者の姓を「・」や「,」でつなぎ、続けて「ほか」「et al.」「и др.」等と表記してください。刊行年の後の「:」および頁を結ぶ「-」は半角です。また、複数の文献をあげる時は、半角の「;」で繋いでください。

- ② 稿末に、本文や註の文中、または図表キャプション中で言及のなされた文献を「参照文献」として一覧にあげてください。原則として、外国語文献はアルファベット順、日本語文献は五十音順に配列し、外国語文献の一覧を先に置きます。同じ著者等で同一年の複数の文献がある場合には、刊行年の後に参照順で a、b、c… を付してください。

オープンアクセスの電子ジャーナル論文等の場合、doi あるいは参照先の URL アドレスを明記してください。その他、ウェブ上に公開されている文献等の著作権の侵害についても十分留意してください。また、欧米語以外の言語による参照文献の場合、あるいは特

殊文字を必要とする場合は、別途ご相談ください。

その他、以下の例示に準拠してください。

(例) (□は全角スペースを示す)

Aurenche, O., J. K. Kozłowski and S. K. Kozłowski 2013 To Be or Not to Be... Neolithic: “Failed Attempts” at Neolithization in Central and Eastern Europe and in the Near East, and Their Final Success (35,000-7,000 BP). *Paléorient* 39/2: 5-45.

Balossi Restelli, F. 2006 *The Development of ‘Cultural Regions’ in the Neolithic of the Near East: The ‘Dark Faced Burnished Ware Horizon.’* BAR International Series 1482. Oxford, Archaeopress.

Borrell, F., A. Junno and J. A. Barceló 2015 Synchronous Environmental and Cultural Change in the Emergence of Agricultural Economies 10,000 Years Ago in the Levant. *PLoS ONE* 10(8); e0134810. doi: 10.1371/journal.pone/0134810.

Caley, E. R. 1971 Analyses of Some Metal Artifacts from Ancient Afghanistan. In R. H. Brill (ed.), *Science and Archaeology*, 106-113. Cambridge, MIT Press.

Cauvin, J. 1972a *Religions néolithiques de Syro-Palestine*. Paris, Librairie d’Amérique et d’Orient, Jean Maisonneuve.

Cauvin, J. 1972b Sondage à Tell Assouad (Djezireh, Syrie). *Annales archéologiques arabes syriennes* 22: 85-89.

Fukai, S. and T. Matsutani (eds.) 1981 *Telul eth-Thalathat, Vol. IV: The Excavations of Tell II, the Fifth Season (1976)*. The Tokyo University Iraq-Iran Archaeological Expedition Report 17. Tokyo, The Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo.

Hauptmann, H. 1999 The Urfa Region. In M. Özdoğan and N. Başgelen (eds.), *Neolithic in Turkey: The Cradle of Civilization. New Discoveries*, 2 Vols., 65-86, 37-55. Istanbul, Arkeoloji ve Sanat Yayınları.

Heimpel, W. (n.d.) Records of Counts of

- Trees in Garshana and Zabala.
- Kühne, H. 1976 *Die Keramik vom Tell Chuera und ihre Beziehungen zu Funden aus Syrien-Palästina, der Türkei und dem Iraq*. Vorderasiatische Forschungen der Max Freiherr von Oppenheim-Stiftung Bd. 1. Berlin, Gebr. Mann Verlag.
- Le Mièrre, M. 2009 Early Neolithic Pottery from the Near East: The Question of Temper and Its Implications. In L. Astruc, A. Gaulon and L. Salanova (eds.), *Méthodes d'approche des premières productions céramiques: Études de cas dans les Balkans et au Levant*, 73-80. Internationale Archäologie, Arbeitsgemeinschaft, Symposium, Tagung, Kongress, Band 12. Rahden/Westf., Verlag Marie Leidorf GmbH.
- Moore, A., G. C. Hillman and A. Legge 1975 The Excavations at Abu Hureyra in Syria: A Preliminary Report. *Proceedings of the Prehistoric Society* 41: 50-77.
- Morony, M. 2008 Should Sasanian Iran Be Included in Late Antiquity? *Sasanika*. www.sasanika.org/wp-content/uploads/e-sasanika1-Morony4.pdf.
- Rollefson, G., Y. Rowan, M. Perry and W. Abu-Azizeh (in press) The 2011 Season at Wisad Pools, Black Desert: Preliminary Report. *Annual of the Department of Antiquities* 56.
- Wheeler, R. E. M. 1954 *Archaeology from the Earth*. London, Oxford University Press.
- 岩崎卓也・西野□元（編）□1993『エル・ルージュ盆地における考古学的調査Ⅲ』筑波大学シリア考古学調査団報告3□筑波大学歴史・人類学系。
- 小泉龍人□2000「古代メソポタミアの土器生産—製作技術と工房立地から見た専門化—」『西アジア考古学』1号□11-31頁。
- 紺谷亮一・小高敬寛・須藤寛史・早川裕弼・F. クラックオウル・K. エムレ・G. オズトゥルク□2014「トルコ共和国カイセリ県遺跡調査プロジェクト (KAYAP) 第6次調査 (2013年) 概報」『岡山市立オリエント美術館研究紀要』28巻□25-34頁。
- シュマント=ベッセラ, D. □2008『文字はこうして生まれた』岩波書店。
- 常木□晃□2003『ハラフ文化の研究』博士論文□金沢大学。
- 藤井純夫□2001『ムギとヒツジの考古学』世界の考古学16□同成社。
- 前川和也□1989「シュメール粘土板記録における土器と陶工」大津忠彦（編）『古代中近東の土器—変遷とその背景—』59-71頁□中近東文化センター。
- 松谷敏雄□1968「ジャルモ期の編年に対する疑問」『オリエント』11巻3-4号□13-36頁。
- ③ キリル文字文献は以下の要領に従って原語で表記し、参照文献は他のラテン文字文献とは分けて列挙してください。
- (例)
- Бахшалиев, В. Б. 2014 Новые энеолитические памятники на территории Нахчевана. *Российская Археология* 2014/2: 88-95.
- Мунчаев, Р. М. 1975 *Кавказ на Заре Бронзового Века*. Москва, Наука.
- Патокова, Э. Ф. и В. Г. Петренко 1989 Новые Источники и Проблемы Изучения Позднего Триполья на Западе Причерноморских Степей. В Э. Ф. Патокова (ред.), *Памятники Трипольской Культуры в Северо-Западном Причерноморье*, 50-81. Киев, Науково Думка.
- ④ ウェブページなどウェブサイト上に掲載された文書や情報を参照する場合は、以下の例示に準拠してください。ウェブサイトの出版年や更新年が明らかではない場合は、省略してかまいません。
- (例) (□は全角スペースを示す)
- Bower, B. 2017 Big Moves: How Asian Nomadic Herders Built New Bronze Age Cultures. *Science News*. <https://www.sciencenews.org/article/how-asian-nomadic-herders-built-new-bronze-age-cultures> (2018年10月30日閲覧)
- Japanese Society for West Asian Archaeology. About us. *Japanese Society for West Asian Archaeology*. http://jswaa.org/en_aboutus/ (2023年9月23日閲覧)
- Meyer, J. Ch. and E. H. Seland 2010 *Palmyrena: City, Hinterland and*

Caravan Trade between Occident and Orient. <http://www.org.uib.no/palmyrena/index.htm>. (2016年1月20日閲覧)

朝日新聞社・NHK・NHK プロモーション□
2022『ポンペイ展』<https://pompeii2022.jp> (2023年5月10日閲覧)

日本西アジア考古学会「調査団情報」『日本西アジア考古学会』<http://jswaa.org/expeditions/> (2023年9月23日閲覧)

また、出版年や更新年が明らかではないウェブサイトの情報を本文または註の文中で掲載する場合は、全角の括弧（ ）に入れ、閲覧した年を用いて例のように示してください。
(例) (日本西アジア考古学会 2023)

4.11. 図表

- ① 図表は必要最低限の数量にとどめてください。点数制限はありませんが、1頁大の図表(縦 23.6 cm×横 16.8 cm、キャプションを含む)を原稿用紙5枚分として換算し、本規定2に定める原稿の分量制限を遵守してください。
- ② 図表は電子ファイルでの提出を原則とします。Microsoft Office等に貼りつけた画像ではなく、そのまま製版できる解像度(およそ 300dpi 以上)を有する、.tif/tiff、.jpg、.ai、.psd、.pdf等の画像ファイルにしてください。また、図表1点につき1ファイルとして作成してください。
- ③ 原則としてモノクロームで作成し、縦 23.6 cm×横 16.8 cm 以内(キャプションを収めるのに必要な余白を含む)に収めてください。カラー印刷を希望される場合は、原則として見開き2頁あたり2万円(+税)を執筆者にご負担いただきますので、予めご了承のうえ、お申し出ください。
- ④ 図表は図と表に分けて、図1、図2…あるいは表1、表2…のようにそれぞれ通し番号を算用数字で付し、ファイル名としてください。写真は図に含めるものとします。
- ⑤ すべての図表にはキャプションを要します。キャプションは図表それぞれの画像ファイル中に貼り込まず、別のファイル(Microsoft Word 文書ないし PDF 形式、A4 判1枚)に一括して記載してください。
- ⑥ 出典がある場合は、本規定 4.10. ①に準じた明記を要します。ただし、執筆者が作成した初出の図表に「(筆者作成)」等の文言を付す必要はありません。

- ⑦ 掲載する図表の著作権所有者・機関からの許諾は、執筆者の責任において事前に取得してください。刊行後、権利者から指摘があった場合、日本西アジア考古学会は一切の責任を負わないものとします。

5. 審査・査読

原稿の採否ならびに採録時の種別は、編集委員会が審査のうえ決定します。ただし、論文、研究ノート、調査報告、資料紹介として投稿された原稿は、原則として編集委員会が委嘱した方による査読を行ない、その結果を踏まえて編集委員会が審査します。採否等の決定に先立って、編集委員会から修正をお願いすることもあります。

なお、「特集」の各論考についても同様に取り扱います。

6. 校正

執筆者による校正は原則として初校のみとし、誤字・脱字類の訂正にとどめるものとします。内容を大幅に改変するような校正指示があった場合、もしくは校正返却の期限を超過した場合は、採録の決定を取り消すこともありますのでご承知おきください。

7. 抜刷

採録された原稿の執筆者には、掲載頁の PDF ファイルを送付します。

8. 著作権

採録された原稿の著作権は、日本西アジア考古学会に帰属するものとします。転載を希望される場合は、学会事務局までご連絡願います。なお、採録された原稿は、原則として電子化のうえ公開されます。

9. その他

その他ご不明な点は、ご遠慮なく学会事務局または編集委員会にお問い合わせください。

(2016年3月31日改定)
(2024年3月31日一部修正)

